平和憲法･9条をまもる 岩手の会 ニュース No.１５６

2018.10.2
発行：平和憲法・９条をまもる
　　　岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL　019－684－2225
FAX　019－684－2227

戦争も核兵器もいらない！ピースアクション開催－いわて生協－

■夏休みピースアクション■　毎年夏に平和について考える取り組み、「ピースアクション」を開催。夏休み中の子どもたちを集めたり、地域と組合員を結ぶパイプ役であるこ～ぷ委員会単位で、戦争や平和をテーマにした紙芝居やアニメを鑑賞しながら平和について話し合いました。今年は昨年より参加が広がり、県内５５会場８７７人が参加。特に一関市にまつわる戦争の話「ライオンの涙」の紙芝居を、多くの会場で取り組みました。

＜子どもたちの感想＞

●らいおんがかわいそう。せんそうってこわいな（小学１年生）

●悲しい。何でこんなことをしなければならないのかわからない。
　何で戦争をしなければならないの？誰が始めたの？（小学２年生）

■平和のつどい■　毎年８月９日に、盛岡市高松の池畔の平和祈念像“望み”像前で、「平和のつどい」を開催。今年は４０人が参加し、８月４日～６日に全国の生協組合員が集まって開催した「ピースアクションｉｎヒロシマ」の参加報告や、６月２３日沖縄慰霊の日に暗唱された詩「生きる」の朗読、平和を願う歌「青い空は」をみんなで歌いました。そして、長崎原爆投下時間１１時２分に、盛岡ハリストス正教会の鐘に合わせ、全員で黙祷。参加者からは、「戦争の悲惨さや平和の願いを後世に伝えることが重要。若い世代にどう伝えるか考えていかなければ」という声が出されました。

戦争の愚かさを知り、不戦の誓いを新たに－胆江地区平和のつどい－

８月２５日に同つどい実行委員会主催で、参加５０人で開催しました。「旧日本陸軍小山飛行場と米軍胆江空襲の真相」をテーマに、３人のパネラーが登壇。岩手・戦争を記録する会事務局長の加藤昭雄さんは、学徒動員で県内 1,800 人が学徒動員され、小山飛行場建設が秘密裏に進められていたこと等を解説。星が丘沢田医院院長の沢田公任さんは、劣悪な衣食住環境の中で飛行場滑走路建設に従事した話のほか、孫子の言葉を引用し「戦争とは人類が絶滅するかどうか。この言葉こそが本質を捉えていると感じる」と話しました。胆江民教研代表の宍戸春雄さんは、当時村会議員だった父にも知らされないまま飛行場建設が進んだことや空襲に遭ったエピソード等を紹介。「飛行場建設には目に見えない犠牲があった。飛行場の存在が『戦争はいけない』と思わせた」と語気を強めました。

国会での改憲発議、参院選前の国民投票を食い止めよう！

岩手の3,000万署名数は、16万２千筆（１０／１現在）

いわさきちひろ生誕 100 年前進座公演

ちひろ～わたし、絵と結婚するの～

11 月 30 日（金）13:30～・18:30～　県民会館　中ホール

前売券：一般 5,000 円、ペア券 9,000 円（当日：一般 5,500 円、中高大学生 3,000 円）

前売券は、岩手県生協連ほか各実行委員団体、県民会館、パルクアベニュー・カワトク、アネックスカワトク、フェザン、プラザおでって、ビッグルーフ滝沢、いわて生協店舗で販売中。主催／ちひろ公演を成功させる実行委員会

●脚本家・朱海青さんによるトークショー「画家・いわさきちひろの生涯」開催

１１月の公演に先立ち、８月３０日に脚本を担当した朱海青（しゅかいせい）さんをお迎えし、「画家・いわさきちひろの生涯」と題して、いわさきちひろの生涯や、今度のお芝居の魅力などをお話しいただきました。朱さんは「芝居の根底に、ちひろの非戦の誓いを込めた作品に仕上がったと思います」と説明。参加者から「ちひろの人生や人となりを知り、ますますファンになりました」「奈落の底に落ちていくような戦中戦後の時代に、ちひろは人々が救われるような絵を描いた。その生き方に感動しました」「公演が楽しみです」などの感想が寄せられました。

コラム　朝鮮半島で第３回「南北首脳会談」が開かれる、非核化と平和の構築で重要な一歩前進！

このコラムは月１回、情報過多と新自由主義的な社会状況下様々な価値観が充満する中で、判断する基本的な視点を互いに確認し合うことを願い、記しているところであります。ご期待に応えているか毎月思案しております。

さて９月１８日から２０日、北朝鮮の平壌で第３回「南北首脳会談」が開催され、「非核化」と「平和の構築」が合意されました。早速国連のグテーレス事務総長が「支援しなければならない」と声明を出しました。とても「重要な一歩」となったからではないでしょうか。詳細は他に譲るとして、これは「平和のプロセス」になっているからだと思います。

ここにいたるまで、４月からの南北首脳会談にも、歴史的と言われた６月の「米朝首脳会談」にまで内外からのこれに対する疑義が常に付随していました。とても残念な状況だったと思います。それはいまだに、帝国主義時代の権謀術数に基づく外交観念にとらわれているからのものだからと思います。朝鮮戦争の休戦協定といえども戦争状況下で強権政治を行わなければならない北朝鮮を含めて、第二次世界大戦後の民主主義外交に基づく「平和外交」の観念に慣れることが求められるのではないでしょうか。個別に見れば確かに北朝鮮は「強権政治国家」だと思います。しかし、今回も国連加盟国として「対話の外交」をやっているのではないでしょうか。

「北朝鮮の核保有は断じて認められない！」というあまり、もしかして「憎きは北朝鮮！」という国民感情がもしもあるとすればそれは早急に克服しなければならものだと思いますが、如何でしょうか。

北朝鮮の肩を持つつもりはないのですが、北朝鮮に対する正しい国民感情に立てば今回の南北首脳会談は何の疑義もなくすっきりしたものとして見えることでしょう。「課題」もあることと「疑義」をはさむこととは意味が違うと思います。（T）

10月の署名活動は、９日（火）12：30～13：00

盛岡市大通・野村證券前で3,000万署名の街宣署名を行います。お誘い合わせの上ぜひご参加下さい！